

草加八潮消防組合（構成市）の概要

草加市の概要



草加市は、中川、綾瀬川下流域に拓けた東西7.24km、南北7.60km、面積は27.46km²の都市です。市内には、中川、綾瀬川のほかに、伝右川、毛長川、葛西用水など大小さまざまな川が流れ、かつては田園地帯が一面に広がりをみせ、水と緑に恵まれたのどかな風景が見られました。

昭和33年11月1日、県下21番目に市制を施行し、昭和37年、東武伊勢崎線と地下鉄日比谷線の相互乗り入れや、当時東洋一のマンモス団地といわれた松原団地の造成等を経て、昭和43年には県下8番目の10万人都市になりました。東京近郊という立地条件、交通の利便性もあり昭和50年代後半から人口が急激に増加し、平成16年4月には全国40番目の特例市に移行、現在では人口25万人を超える都市となっています。

八潮市の概要



八潮市は、中川低地の南端に位置し、東西5.23km、南北7.45km、面積は18.02km²の都市です。市内には、東を中川、西を綾瀬川、南を堀川の一級河川が流れ、古くから河川の恩恵を受けてきました。

昭和31年9月28日、八條村・八幡村・潮止村の三村の頭文字をとって八潮村が誕生しました。都心から20km圏内という地の利もあり、その後の高度経済成長による工場の進出や急激な人口増加により発展を続け、昭和47年1月15日、県下34番目に市制を施行しました。その後も首都高速道路の開通や区画整理事業による都市基盤の整備、平成17年のつくばエクスプレス八潮駅の開業に伴って、現在では人口が9万3千人を超える都市となっています。

